

介護事業所における大規模災害に備えた講演会

社会福祉法人 弘前豊徳会

〒036-8311 青森県弘前市大字大川字中桜川18番地10

助成事業の概要

①目的

地域の防災意識向上、福祉・医療分野における減災対策の向上のため、介護事業所における大規模災害対策についての講演会を実施。

②時期

平成26年9月1日～平成27年3月31日
9月より講師依頼、会場選定・設営、資料作成、広報等の準備期間。

11月 講演会開催。

講演会終了後～3月末までアンケート集計及び「活動報告書」含む事業報告書の作成、配布、情報公開等。

③講演会の内容

タイトル

「『東日本大震災に学ぶ』災害対策セミナー」

実施日時

平成26年11月15日（土）・22日（土）午後1時30分～午後4時30分。

講師は岩手・宮城・福島の3県より6名。その他詳細は別添の「活動報告書」に記載。

事業の成果

講演会参加状況は、定員が各回100名ずつに対し2日間合計で189名の参加があり、目標はほぼ達成できたと考える。参加者内訳は6割が青森県弘前市からであり、残り4割は青森県内11市町村と、隣県の秋田県からも参加いただいた。参加者にはアンケートを配布した。回収件数は1

12件、回収率は59.3%である。参加者の年齢構成は10代から70代以上まで幅広く、30代が28.6%と最も多かった。職業構成は医療・介護従事者が7割以上であり、最多は介護職員で20.5%。講演会を知ったきっかけはチラシが最も多く31.1%次いでポスター（26.2%）、知人の紹介（14.8%）と続いた。

上記アンケート集計結果の詳細は別添の「活動報告書」に記載。

講演会に寄せられた声は「活動報告書」のほか、当法人ホームページでも公開している。概ね「勉強になった」「今後に活かしたい」との声が多数である。

講演会後に得られた成果は、当法人職員の災害対策における意識改革を促すことができた点と、貴重な話を提供する機会を設けることで地域福祉に貢献できた点大きい。参加者の中には、「事業報告書」を送付希望する声も聴かれたことから、講演会によって意識が変化したことが伺える。講師には可能な範囲で講演内容に当法人の被災地支援についても触れるようにしてもらうことで、当法人のイメージアップを図ったが、実際に「貴法人の活躍には頭が下がる。今後も頑張ってもらいたい」等の声があったことから、効果はあったと言える。内部に向けては、当法人職員であることに誇りを持てるように促したことで、帰属意識を高めることができたようだ。

また、講師依頼を関係が密な機関に行ったことで、被災地から弘前豊徳会への要介護高齢者受入れにおけるパイプが強化され、次年度以降も継続的な被災地からの受入れが可能な態勢が整った。

■ 成果の広報・公表

セミナーの内容は、新聞社より取材申し込みがあり、「朝日新聞（2014年11月26日付）」「陸奥新報（2014年11月26日付）」の2紙で取り上げられた。

当法人では「サンタハウス弘前スタッフブログ」（2014年11月24日付）と、弘前豊徳会後援会会誌「後援会だより」（2015年1月31日発行）にて概要を公開したほか、具体的な内容と参加者アンケートを集計したものは「活動報告書」としてまとめ、冊子を200部作成した。「活動報告書」の配布先は県内外の行政・福祉・医療機関、連携事業所等や、講演会参加者で希望した方にも配布している。当法人のホームページ上ではこの「活動報告書」の他、講演会の様子の写真、アンケートでいただいた参加者の声等を公開している。

■ 今後の展開

当法人では次年度より法人全体の職員研修教育を統括する部門を創設予定であるが、今回実施したセミナー内容を活用し、災害対策マニュアルの強化と内部での人材育成に役立てる予定である。

また、今回実施したセミナーは、災害対策について幅広く考える導入的内容として、6名の講師に様々な地域における問題を、福祉あるいは医療の視点で紹介していただいたが、セミナー参加者のアンケート結果を見ると、講演自体に満足する一方で、さらに知識・技術を高めたいという意図から、より実践的な内容（実習・演習）を盛り込んだセミナーを要望する声が内外より複数寄せられた。

そこで、この地域ニーズを汲み、実践的な内容にテーマを絞り込んだ研修を実施することが、地域福祉向上、災害対策向上に必要と判断し、研修計

画を次回の日本社会福祉弘済会社会福祉助成事業に申請したところ、本レポート提出直前に採用の通知を受けたので、再度助成を受けて実施する予定である。